

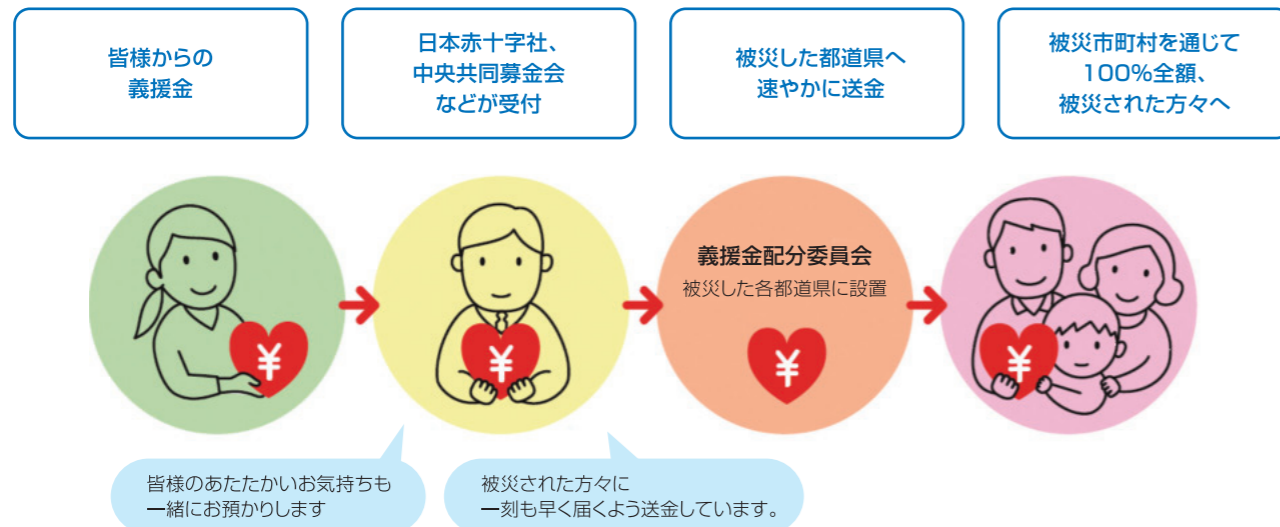
義援金

東日本大震災義援金募集では、兵庫県赤十字奉仕団、特別赤十字奉仕団、さらには青少年赤十字加盟校など赤十字関係者をはじめ、多くの県民の皆さんが各地域で義援金募集にご協力くださり多額の義援金をお寄せいただいています。

東日本大震災義援金として日本赤十字社がお預かりした浄財は、「国または地方公共団体に対する寄附金」として被災地の義援金配分委員会を通じて、全額が被災者の皆さまに届けられます。

兵庫県支部での受付金額 約8億8,155万円(7月31日現在)

本社に寄せられた金額 約2,710億5,684万円(7月27日現在)



活動資金ご支援のお願い

皆さまからのご支援により多数の被災者の皆さんの救護活動を行うことができました。引き続き、赤十字の活動資金にご協力をお願いします。

郵便局・ゆうちょ銀行
からのお振込みによるご協力

口座記号番号:01110-0-1136
口座加入者名:日本赤十字社兵庫県支部
その他:窓口からの振込は手数料が免除されます。

銀行
からのお振込みによるご協力

銀行名:三井住友銀行神戸営業部
口座番号:普通口座8527478
口座名義:日本赤十字社兵庫県支部
その他:専用振込用紙による振込手数料は無料です。専用の振込用紙は下記までご請求ください。

■ ご請求・お問い合わせ先 ■

日本赤十字社兵庫県支部 振興課(電話078-241-8921)

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号 TEL (078)241-9889 FAX (078)241-6990 <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>

赤十字 兵庫 検索

東日本大震災での 兵庫県支部の救護活動報告



はじめに

平成23年3月11日(金)午後2時46分頃、東北地方三陸沖を震源とする観測史上最大のM9.0の巨大地震が発生した。この地震によって、宮城県では震度6強から7、岩手県では震度6弱など東日本の太平洋側は大きな揺れに襲われ、その直後には街をまるごと飲み込む大津波が発生。死者15,636人、行方不明者4,808人、全壊・半壊家屋243,064棟という甚大な被害をもたらした。(平成23年7月26日現在、政府緊急災害対策本部発表)

日本赤十字社兵庫県支部では、発災直後から本社、被災地の支部ならびに被災地の県市町災害対策本部などとの密接な連携のもとで、24班、221人に及ぶ医療救護班や4チーム、13人のこころのケアチームを派遣、延べ2,317人の被災者の診療と延べ433人のこころのケアを行った。

皆さまからのご支援により、兵庫県支部が行った東日本大震災での救護活動をご報告します。



宮城県名取市(提供:神戸新聞社)



岩手県釜石市



岩手県大槌町



岩手県山田町

仮設診療所や巡回診療に次々に訪れる被災者の皆さん

兵庫県支部においても地震発生により大きな揺れを感じ、テレビなどで情報収集を行うにつれ、大きな被害がもたらされることが予想されたことから3月11日午後3時00分、支部内に「災害救護対策本部」を設置。

姫路、神戸、柏原、多可の各赤十字病院の救護班に出勤待機を指示、午後6時35分、神戸赤十字病院の医療救護班11人、支部職員2人をトラック2台、救急車1台、支援車両1台に分乗させ、エアートントや医療資機材とともに岩手県に向け緊急出動させた。

兵庫県支部では、釜石市教育センター横の「鈴子広場」を活動拠点と定め、3月13日からエアートントによる仮設診療所を設置。その後も姫路、神戸、柏原、多可の各赤十字病院の医療救護班を継続派遣し、厳寒の中、又、余震による津波警報が頻繁に発令される中、静岡県支部と合同による24時間体制での医療救護活動を展開した。また、釜石市内や大槌町内の避難所への巡回診療も行った。

釜石市鈴子広場での救護活動

(1) 患者数 延べ1,254人、こころのケア要員が関わった人数 延べ19人

(2) 医療救護班の派遣状況

(人)

	出発日	帰着日	病院名	医師	看護師	薬剤師	事務※	内、こころのケア	計
第1陣	3月11日	3月15日	神戸	1	4	1	7	(1)	13
第2陣	3月14日	3月17日	姫路	1	3		3		13
	3月15日		柏原	1	3	1	1	(1)	
第3陣	3月17日	3月21日	神戸	4	3	1	4	(2)	12
第4陣	3月21日	3月24日	神戸	3		1	1		10
			多可		3		2	(2)	
第5陣	3月24日	3月28日	姫路	1	3	1	3	(1)	8
第6陣	3月28日	4月1日	神戸	4	4	1	4	(1)	13
第7陣	4月1日	4月5日	姫路	1	3	1	3	(1)	8
第8陣	4月5日	4月9日	姫路	1	3	1	3		8
第9陣	4月9日	4月13日	神戸	4	4	1	4	(1)	13
計				21	33	9	35	(10)	98

なお、仮設診療所の設置及び撤収支援のため、姫路赤十字病院2人、神戸赤十字病院2人、兵庫県赤十字血液センター2人及び支部職員1人を別途派遣(各病院医療救護班の事務には、支部の連絡調整員・広報要員を含む。)した。

※第9陣については、4月11日から県立山田高等学校へ移動した。



3月11日午後6時35分、医療救護班第1陣が出発



エアートントによる仮設診療所で診療を行う医療救護班



巡回診療の受診に列をつくる被災者の皆さん(県立大槌高等学校)

活動拠点を町内最大の避難所「県立山田高等学校」へと

全国の赤十字医療救護班の活動地の再調整により、兵庫県支部では30日間活動拠点としてきた釜石市の仮設診療所を関東甲信越の赤十字病院の医療チームに引継ぎ、第9陣の派遣期間中である4月11日、釜石市から北へ車で約1時間の位置にある山田町に移動。町内最大の避難者がおられた「岩手県立山田高等学校」に常設救護所を設置し、5月12日までの32日間、避難者の皆さん約500人の健康管理等に当たった。

山田町の医院や薬局も徐々に機能しはじめ、被災者の皆さんを受入れることができるようになりはじめたことなどから、地元医療に引継ぎを行えるようになってきた。

そこで、県立山田高等学校の常設救護所を5月13日に撤収、その後は、日本赤十字社近畿ブロック各支部が輪番で医療救護班を派遣し、「県立陸中海岸青少年の家(山田町)」を拠点に、青少年の家での診療や県立山田高等学校をはじめ近隣避難所への巡回診療へと活動を展開した。この活動は、5月25日まで継続された。



約500人が避難生活を送る山田高等学校の体育館



山田高等学校の常設救護所で診察を行う医師

県立山田高等学校での救護活動

(1) 患者数 延べ1,000人、こころのケア要員が関わった人数 延べ169人

(2) 医療救護班の派遣状況

(人)

	出発日	帰着日	病院名	医療スタッフ					内、こころのケア	計
				医師	看護師	薬剤師	事務※			
第9陣	4月9日	4月13日	神戸	4	4	1	4		(1)	13
第10陣	4月12日	4月16日	姫路	1	3	1	3			8
第11陣	4月15日	4月19日	柏原	2	3	1	2			14
			多可		3	1	2		(1)	
第12陣	4月18日	4月22日	神戸	4	4	1	4		(1)	13
第13陣	4月21日	4月25日	姫路	1	3	1	3			8
第14陣	4月24日	4月28日	姫路	1	4	1	3			9
第15陣	4月27日	5月1日	神戸	2	3	1	3		(1)	9
第16陣	4月30日	5月4日	姫路	1	3	1	3		(1)	8
第17陣	5月3日	5月7日	姫路	1	3	1	3		(1)	8
第18陣	5月6日	5月10日	神戸	2	3	1	3		(1)	9
第19陣	5月9日	5月13日	姫路	1	3	1	3		(1)	8
計				20	39	12	36		(8)	107

なお、救護所撤収のため、姫路赤十字病院2人、神戸赤十字病院4人、兵庫県赤十字血液センター2人及び支部職員2人を別途派遣(各病院医療救護班の事務には、支部の連絡調整員を含む。)するとともに、別途こころのケアチームの派遣を行った。

陸中海岸青少年の家での救護活動

(1) 患者数 延べ63人、こころのケア要員が関わった人数 延べ20人

(2) 医療救護班の派遣状況

(人)

	出発日	帰着日	病院名	医療スタッフ					計
				医師	看護師	薬剤師	事務※	内、こころのケア	
第20陣	5月18日	5月22日	柏原	1	3		3	(2)	12
			多可	1	1	1	2	(1)	
計				2	4	1	5	(3)	12

※各病院医療救護班の事務には、支部の連絡調整員・広報要員を含む。

こころのケア

兵庫県支部では、精神的なダメージ、心身の疲労、避難所生活などから生じると考えられるストレスの軽減を図るため、第1陣の医療救護班の派遣時から、継続的に救護班にこころのケア要員を帯同させた。

また、4月30日からは救護班とは別に「こころのケア専門チーム」も山田町に派遣し、被災者の皆さんのこころのケアにあたることも、被災者の皆さん約350人に対する「悲嘆についての理解とケア」講演、避難所等で支援にあたる5人の保健師の皆さんへの「メンタルケア」講義、さらにはご遺体安置所での、遺族対応の方法についてのマニュアルの提供なども行った。

5月30日からは、日本赤十字社近畿ブロック各支部が協同で「こころのケアチーム」を輪番派遣し、兵庫県支部からは姫路、多可、神戸の各赤十字病院のこころのケアチームを派遣した。

(1) こころのケアチームが関わった人数 延べ225人

(2) こころのケアチームの派遣状況

(人)

出発日	帰着日	病院名	スタッフ			計
			医師	こころのケア要員	調整員	
4月30日	5月4日	神戸	1	2	1	4
6月3日	6月7日	神戸・支部		2	1	3
6月11日	6月15日	姫路		2	1	3
7月1日	7月5日	多可		2	1	3
計			1	8	4	13



避難所を巡回するこころのケア専門チーム

石巻赤十字病院等への人的支援

一方、甚大な被害となった宮城県石巻市では、ほとんどの医療機関が津波により浸水、建物損壊等で機能不能となったことから、市内で唯一医療機能が維持されている石巻赤十字病院に被災者の皆さんが集中した。震災翌日の12日には779人、13日には1,251人など多くの患者さんが救急搬送されるとともに、1日に100台を超える救急車が押し寄せた。

そこで、全国の支部が支援することとなり、兵庫県支部として姫路、神戸の各赤十字病院からは救急部門診療支援、災害コーディネーター支援、トリアージ支援、病院看護業務支援、事務管理支援のために医師3人、看護師9人、助産師4人、主事3人を派遣したほか、石巻赤十字看護専門学校再開支援のため、姫路赤十字看護専門学校の専任教師2人を派遣した。



被災者が集中する石巻赤十字病院

救援物資を緊急搬送

兵庫県支部では、発災翌日の12日、備蓄している毛布や携帯ラジオ、懐中電灯などが入った緊急セット、キャンピングマットや枕などが入った安眠セットを、日本赤十字社近畿ブロック各支部の取りまとめを行っている高槻赤十字病院(大阪府)に緊急搬送した。同院で取りまとめられた救援物資は、ただちに各被災地に向け搬送された。

搬送日	種別	保管場所	数量
3月12日	毛布	兵庫県支部	500枚
3月12日	毛布	柏原赤十字病院	690枚
3月21日	緊急セット	多可赤十字備蓄倉庫	672セット
3月21日	緊急セット	柏原赤十字病院	300セット
3月29日	安眠セット	多可赤十字備蓄倉庫	350セット
4月18日	緊急セット	兵庫県支部	300セット



赤十字防災ボランティアの派遣

兵庫県支部では、本社に設置されたボランティアセンターや宮城県と岩手県に設置されたボランティアセンターの運営支援のため、兵庫県支部に登録されている赤十字防災ボランティアリーダー及びサブリーダーの皆さんを派遣している。

また、5月27日からは、被災地シャトルバスによる瓦礫や泥の撤去などのため防災ボランティア募集を開始したほか、岩手県遠野市ボランティアセンター支援や一般ボランティアの皆さんの健康管理のために赤十字防災ボランティアの派遣を行っている。

防災ボランティアの派遣状況



支援の打合せをする防災ボランティア

派遣先・活動内容	延人数
本社ボランティアセンター(本社内での防災ボランティアの活動内容等調整業務)	5
シャトル便ドライバー(本社と被災地間の防災ボランティア・職員移動のためのシャトル便ドライバー)	9
宮城県支部本部防災ボランティアセンター(運営支援及び宮城県支部並びに本社との連絡調整業務)	2
気仙沼市現地防災ボランティアセンター(運営支援及び宮城県支部並びに本社との連絡調整業務)	1
岩手県支部遠野市現地防災ボランティアセンター(ボランティアセンターの運営支援等)	1
宮城県内被災地シャトルバスによるボランティア活動(津波で被災した地域の住居・店舗の泥掃出し及び清掃活動、瓦礫等の撤去活動)	5
計	23

(7月4日現在)

輸血用血液製剤の供給支援

被災地域の赤十字血液センターでは、大震災により多くの献血協力団体が被災され、また献血ルームなどが停電や損壊等により採血不能となった。そこで、全国で被災地域の赤十字血液センターを支援することとなり、兵庫県赤十字血液センターでは被災地域の輸血用血液製剤の不足を支援するため、赤十字血液センター近畿ブロックの取りまとめを行っている大阪府赤十字血液センターを通じて、被災県の血液センターに輸血用血液製剤を供給した。

また、3月17日から4月3日まで、宮城県赤十字血液センターへ4名の職員を派遣し、血液製剤の供給業務支援を行った。

被災県への輸血用血液製剤の供給

- (1)供給期間 3月12日から5月13日まで
- (2)被災県への血液製剤の供給量
 - ①血小板 4,930単位
 - ②赤血球 630単位(1単位は、200mLの血液から製造される血小板、赤血球製剤の数)

日本赤十字社の全社的な取り組み

日本赤十字社では、発災当日から、全国の赤十字支部から807班の医療救護班を派遣するなど、以下のような活動を行った。

医療救護班の派遣 (7月22日現在)

搬送日	救護班数(班)	延べ患者数
北海道内	5	79,144人 (発災直後の一部データは現在調整中であり含まれていません)
岩手県内	295	
宮城県内	365	
山形県内	2	
福島県内	123	
茨城県内	11	
栃木県内	2	
千葉県内	2	
長野県内	2	
計	807	

救援物資の搬送

毛布	安眠セット	緊急セット	その他
132,510枚	13,500セット	30,132セット	瓦礫撤去用一輪車、軍手、スコップなど、10tトラック6台分

看護ケア班の派遣 (7月22日現在)

派遣先	班数
岩手県陸前高田市	11班

介護チームの派遣 (7月1日第二次派遣終了)

派遣先	派遣職員
岩手県大槌町	35人

赤十字ボランティア

ボランティアセンターの運営	ボランティア活動
約3,600人	約68,000人

その他の活動

献血・血液製剤の供給、介護ベッドの整備、石巻赤十字病院等への人的支援、避難所への支援(暑さ、湿気、防虫対策) 無料安否確認サイト「Family Links(ファミリーリンク)」の公開(6月23日現在 6,022件の登録)、教育支援(日赤キッズクロスプロジェクト)

生活家電セットを被災者の皆さんに

日本赤十字社の救護活動にと、世界各国の赤十字・赤新月社から寄せられた「海外救援金」を財源に、仮設住宅等での生活に必要な洗濯機、冷蔵庫、テレビ、炊飯器、電子レンジ、電気ポットの「生活家電セット」を家電メーカーの協力を得て購入し、被災者の皆さんに寄贈している。また、上下水道が復旧していない避難所での衛生環境を改善するため「手洗い用給水タンク」を設置し、被災地の感染症予防にも努めた。



給水タンクを設置、避難所の衛生環境を改善



陸前高田市立第一中学校の仮設住宅で生活家電セットを受け取った3人家族の山田さん